

令和5年度第2回松伏町総合教育会議 会議録

開催日時	令和5年10月20日（金） 午後3時00分から午後4時00分まで	
会議会場	松伏町役場 201 会議室	
出席者氏名	構成員	松伏町長 鈴木 勝 松伏町教育委員会教育長 岡田 直人 松伏町教育委員会教育長職務代理者 渡邊 淳子 松伏町教育委員会教育委員 宇田川 陽子 松伏町教育委員会教育委員 會田 隆彦 松伏町教育委員会教育委員 増田 芳彦
	事務局等	企画財政課長 立沢 昌秀 企画財政課主幹 小野澤 智昭 企画財政課主任主事 渡邊 大輔 教育総務課長 川村 功樹 教育文化振興課長 鈴木 英樹 教育総務課主幹 小島 武 教育総務課主任 浪江 大知 教育総務課主任主事 伊東 雅之
欠席者	なし	
傍聴人	なし	
次第 (協議又は調整が行われた事項)	1 開会 2 町長挨拶 3 教育長挨拶 4 協議・調整事項 (1) 松伏町教育大綱の改正について (2) 令和6年度当初予算編成スケジュール 5 閉会	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度第2回松伏町総合教育会議次第 令和5年度第2回松伏町総合教育会議出席者名簿 資料1 松伏町教育大綱（案） 資料2 令和6年度当初予算編成スケジュール 松伏町総合教育会議運営要綱 松伏町総合教育会議傍聴要綱 松伏町総合教育会議傍聴要綱運用基準 	
議事録作成者	企画財政課総合政策担当 主任主事 渡邊 大輔	

協議又は調整の要旨

議事	発言者	発言内容・決定事項
1 開会	事務局	会議の開会を宣言

2 町長挨拶	町長	町長の挨拶
3 教育長挨拶	教育長	教育長の挨拶
4 協議・調整事項		
会議録署名人の確認	事務局	会議録署名人は、町長部局側で町長と教育委員会側で渡邊委員の2名となる旨を報告する。
総合教育会議の趣旨説明	事務局	<ul style="list-style-type: none"> 総合教育会議は平成27年の教育委員会制度の変更により、全ての地方公共団体に設置された。 地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有することで、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としている。 教育大綱の策定をはじめ、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について協議・調整事項とするほか、いじめや体罰など児童生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置についても協議・調整事項とするものと定められている。
(1)松伏町教育大綱の改正について	事務局	協議・調整事項の進行は、会議招集者である町長に依頼する。
	町長（議長）	次第 4 協議・調整事項の(1)松伏町教育大綱の改正について事務局より説明を求める。
	事務局	<p>(資料1に基づいて説明)</p> <p>1ページ(3)大綱の改正について</p> <ul style="list-style-type: none"> 松伏町教育大綱は、松伏町総合振興計画との整合性を図るため、あらかじめ計画期間を定めて必要な改正を行っている。 今年度は、令和6年度を始期とする第6次総合振興計画が策定中であることからこちらを踏まえ、大綱策定の考えに基づき改正を行っている。 <p>2ページ(4)今回改正した教育大綱の期間について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回改正した教育大綱の計画期間については、令和6年度から令和10年度までの5年間である。 <p>3ページ(5)大綱の決定日について</p> <ul style="list-style-type: none"> 大綱の決定日については、教育委員会の定例会を経たのちに、令和6年2月の第3回総合教育

会議で改めてお諮りさせていただき、令和6年4月の改正となる。

3ページ 2大綱（1）教育行政目標と基本理念について

- 松伏町教育大綱では、令和6年度の松伏町教育行政重点施策の教育行政目標として、「持続可能な社会の創り手の育成と日本社会に根差したウェルビーイングの向上を目指した松伏の教育」に変更したい。
- こちらは、今年度6月に国が閣議決定した新たな「教育振興基本計画」のコンセプトとも一致している。
- 「基本理念」については、変更はない。

4ページ（2）重点施策について

- アの項目について、「信頼関係に基づいた豊かな人間関係を基盤とした学校教育の推進（学校教育）」と変更した。こちらは、本年度の松伏町教育行政重点施策の策定に当たっての文面においても学校教育を推進するにあたって、大切な事項として記載されている。
- 内容項目（エ）「多様なニーズに対応し、誰一人取り残さない教育の推進」と（コ）「教育DXの推進」を町の総合振興計画及び国の教育振興基本計画に併せ、新たに追加した。
- イ以降の項目については、国等の上位法の大きな改正はないことから、基本的には文言の整理のみを行った。
- イの内容項目（ウ）について、人材の「発掘」という文言を追加した。この項目については、今までは「育成」であったが、さまざまな団体などの高齢化に伴い、新たな人材を発掘しなければならないことから「発掘」という文言を追加した。
- ウの内容項目（イ）について、文化・芸術活動の「支援」を削除し、「充実」を追加した。
- ウの内容項目（ウ）について、社会教育関係団

		<p>体の「育成」を削除した。この項目については、現在、育成まで手が回らない中で、さまざまな支援を強化していくというような考え方から文言を整理した。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウの内容項目（オ）について、家庭教育及び青少年「健全育成」を削除し、「教育」を追加した。この項目については、第5次総合振興計画で教育文化振興課では青少年健全育成協議会を所管していたが、現在はしておらず、しかしながら、ジュニアリーダーやミニまつぶしなど、子どもたちに関わることから「青少年教育」という言葉に改めた。 • 5ページのオの内容項目（ア）について、「生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の充実」に修正した。 • オの内容項目（イ）について、「スポーツ・レクリエーション活動の普及・啓発」に修正した。 • オの内容項目（ウ）について、オのタイトルに「スポーツ健康都市づくりの推進」となっており「スポーツ」がすでに載っていることから、「人材の育成・確保」と整理した。 • オの内容項目（エ）について、支援を強化していくことから「育成」の文言を削除した。
	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> • 質問等を求める。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> • 3ページの2大綱（1）教育行政目標と基本理念について、前回はわかりやすく、松伏町に合っていたように感じた。この部分は簡易で町民のにとって分かりやすい文言がよいのではないかと感じた。 • 4ページ（2）重点施策のイ「豊かで緑あふれるまちを創造する生涯学習の推進について」の（ウ）「人材の発掘・育成・活用の充実」の項目内容と、5ページのオ「スポーツ健康都市づくりの推進」の（ウ）「人材の育成・確保」の項目について、「人材の発掘」を加えている項目とそうでない項目との整合性について、説明していただきたい。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 3ページの2大綱（1）教育行政目標と基本理

	<p>念について、以前の「豊かな文化の担い手と思いやりのある心をはぐくむ松伏の教育」という文言は分かりやすいこともあり、何年も変更せずにした。</p> <p>しかし今年度、国で新たに定められた教育振興基本計画においては形を変えてきたことから、少子高齢化を含め持続可能な社会の創り手の育成と、一人ひとりの幸福を表す「ウェルビーイング」という言葉を入れ、国の動向に合わせた現段階での目標として設定した。しかし、文言的には、まだ一般的に浸透しているものではないため、今後、町民の方にわかりやすく説明できるようにしていきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 教育行政目標と基本理念の内容変更については、事務局から説明があったが、10年以上変更していない部分であった。教育というのは頻繁に変更するものではないこともあるが、近年であれば、コロナの影響やロシアのウクライナ侵攻など、予測不可能な世の中の中で、「持続可能な社会の創り手」がキーワードとして出てきていると感じている。 • 「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」については、文部科学省から出てきたものをあえてカタカナで残したものである。その中に、松伏町の理念も入れていく必要があると感じている。 • これらは大綱として、テーマや項目として記載しているため、今後は基になる教育行政重点施策の中で、これらの内容を詳細に説明していくのがよいのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 事務局の説明等を伺い、丁寧に説明をしていくことは理解したが、やはり松伏バージョンで町民に伝わるような言葉があったら、と思い質問させていただいた。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • いただいていた質問の2つ目の「項目の整合性」については、結論として、前向きに検討させていただきたい。 • 生涯学習については、現在、PTA を中心とした

		<p>ミニまつぶし運営委員会があるが、再度しっかりと土台作りをして、ミニまつぶしのみならず、様々な取り組みをやっていきたいということ踏まえて、「人材の発掘」を盛り込んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5ページのオ「スポーツ健康都市づくりの推進」(ウ)「人材の育成・確保」についても、スポーツ推進委員を含め高齢化で人数が減ってきていることから、「発掘」という観点も付け加えながら見直しをさせていただきたい。
	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> • 「ウェルビーイング」については、以前、講師による職員研修で学んだが、肯定感と幸福感を同時に味わうことであるとのことであった。この言葉は注釈していかないとまだまだ社会に根差した言葉ではないと感じている。
(2) 令和6年度当初予算編成スケジュールについて	町長（議長）	<p>続いて、次第 4 協議・調整事項の(2) 令和6年度当初予算編成スケジュールについて事務局より説明を求める。</p>
	事務局	<p>(資料2に基づいて説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10月の2段目のとおり、10月16日と19日に「令和6年度一般会計予算編成に伴う学校要望ヒアリング」を行なった。こちらでは、予算要望書をもとに各学校長及び事務職員とヒアリングを行い、現地調査を行うものである。 • その後、町内小中学校各校の要望を教育総務課がとりまとめたものと、教育文化振興課が所掌する事業に関するものを合わせて、企画財政課に予算要求書を提出する予定である。 • 今後、予算要求書に基づき、企画財政課に説明するヒアリングが実施される予定である。 • 次に12月の2段目のとおり、12月の定例教育委員会で、「令和6年度松伏町一般会計予算のうち教育に関する事務に係る部分の見積もりについて」の議案を提出する予定である。 • 2月の2段目のとおり、町長から、意見聴取の依頼を企画財政課を通じていただき、2月の定例教育委員会で「令和6年度松伏町一般会計当初予算に係る意見聴取について」の議案を審議いただき、同意する旨の議決をいただく予定で

		<p>ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終的に3月議会にはかられ、議決を受けて、4月から各校予算を執行する流れとなる。
	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> 質問等を求める。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> すでに学校要望ヒアリングを実施したとのことであるが、優先的に実施していかなければならないものなどの一例があれば、教えていただきたい。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> 学校の現場から要望が多いのが施設や備品の充実が一番多いという現状である。施設自体がだんだん古くなっているので、様々なところの修繕や施設に元々あるエアコンなどの備品についての要望が多く挙がってきていた。 全てを叶えるのは、予算の関係上難しいところではあるため、教育委員会としては各校の要望について優先順位を判断しながら予算要望していきたいと考えている。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> 教育関係の予算状況はどうなりそうか。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> 現在、令和6年度からの新しい総合振興計画を策定中であるが、この計画では、現在の第5次総合振興計画を踏まえた上で、様々な要素を加えていくという趣旨の計画作りをし、その方針に合わせた新年度予算を編成したいと考えている。 教育委員会からはICTなどの要望が毎年出てきている。 令和6年度は、昨年、給食センターのエアコン等、調子が悪くなった流れもあるため、施設対処にお金を入れていきたいと考えている。 教育以外の分野でいうと、税収が思い通りに伸びないという状況で、少子高齢化の影響から社会保障費が大きく伸びてしまうという現状である。 教育に対するバランスや、予算全体に占める教育の割合、民生費の割合など各課含めて様々な要望があるため、予算要求をいただいた後に、企画財政課でも集中的に新年度予算の原案を作成していきたい。

	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> • 予算の関係で補足させていただくと、介護保険料や障がい者保険料などの社会保障費は年間で約 2 億円増額してしまう状況となっている。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> • 明るい松伏町の教育のため、予算についてよろしくをお願いしたい。
	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> • AZ-COM 丸和ホールディングス株式会社から企業版ふるさと納税を通して、500 万円の寄附をいただき、松伏中学校と松伏第二中学校の吹奏楽部へ楽器購入をした。 • 様々な企業様から企業版ふるさと納税の寄附をいただく機会が増えてきて、学校周辺の安全対策などを実施することができた。 • 今後もこのような取り組みを実施していきたいと考えている。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> • 第 5 次総合振興計画から第 6 次総合振興計画を見据えて、各担当課での調整をしているところとの説明であったが、国も県も財政がかなり厳しい中で、町に交付される補助金が減額となる可能性があるというところを聞いていたため、松伏町として大きな目玉になるような事業があればいいと感じた。 • 説明があったとおり、福祉の方も予算をかけなければならない状況とのことであるが、教育にお金をかけていただくと、こどもたちや先生方もすごくやりやすいと感じている。大変であると思うが、よろしくをお願いしたい。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 現在策定中の第 6 次総合振興計画は、先ほど申し上げた通り、第 5 次総合振興計画を踏まえて 1 段階や 2 段階ステップアップしていこうと考え策定しているが、時代背景ではすでに少子高齢時代に突入してしまっている。 • 第 6 次総合振興計画の重点施策において特に取り組んでいくものの 1 つ目は、「高齢化対策」であるが、高齢者だけでなく子育ても重点的に実施していく予定である。 • 原点として、総合振興計画に記載したとしても、財源がないと実施することが難しいという問題があるため、その問題を解決する手立てとして、

		<p>町の経営的な観点や、アンケート調査の結果において東京への通勤が不便など交通網に対する要望が多いことから、重点施策の2つ目の項目として、公共交通や企業誘致などで町の経営を重点的に支えていくこととする予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • また、町の全体予算は約90億円で、そのうち約4割は町民からの税金、地方交付税などを合わせると全体の約7、8割を占める。 • こういった状況であるため、地方交付税の金額については、毎年気になるところである。 • 教育からの要望が上がっている施設改修などは可能な限りいい補助金を見つけて早い時期に実施したいと考えている。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 教育委員会の立場として、第6次総合振興計画にあたっては子育て支援に力を入れることを念頭に策定中である。 • 子育て支援では、大きなハード面ソフト面があるが、ハード面の予算は町全体で限られていることから、全てを叶えてもらうことは難しいと思っている。決められた範囲の中で最大限有効活用できるような工夫をしていくことが重要であると考えている。 • ソフト面については、教職員の資質の向上や学校の教育指導の在り方など、教育委員会からも助言をしていくことなどを進めることも重要であると考えている。 • 埼玉県教育長が訪問した時に、松伏第二小学校においては、子供たちが落ち着き、学力も上がっているという言葉をいただいた。 • これは、埼玉県から派遣された人材確保の面も大きかったと思うが、やはり一番は、教職員の士気が上がった、職員が団結したという報告を校長から受けている。 • 教育委員会としては、教職員自身の力を最大限に発揮できるような働き方改革などの様々な面で支援をしながら、今いる教職員や今ある財源を活用し、こどもたちにより良い教育ができるようしていきたいと考えている。

	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> ・越谷市が小中一貫校に移行しようと計画している。 ・現在では、プールを作らず、民間と契約して、授業を行うケースが出てきている。雨の日であっても、室内プールであればプールのカリキュラムを変更せずに事業を行うことができる。プールの授業については、一般のスクールとタイプアップしてところがかかり増えてきている。 ・松伏町でいうと例えば、金杉小学校のプールがかかり古くなってきているため、そのような方向性も視野に入れてもよいのではないかと考えているところである。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度において、松伏第二中学校が B&G 海洋センターのプールを使用したと聞いた。 ・十分に教育課程をこなせたと聞いている。 ・このような取り組みは、プールの維持費や改修費などは減額することができる。 ・民間とコーチもついていただく契約することができれば、良いことであるが、そこまでとはいかなくても、教える場所が変わるだけであると考える。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度においては、生徒が各々自転車で B&G 海洋センターへ行っている。 ・来年度の試算で、学校でプールの事業を行った場合よりも、バスを使用して外部でプールの事業を行う方が安価に済むという報告を受けている。
	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> ・松伏町においても、そういう時代が来ているという現状である。
	構成員	【意見・質問なし】
	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> ・協議、調整事項について終了する。進行を事務局へ戻す。
(3) その他	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、次第には記載がないが、町長からひきこもりについての情報提供と説明をいたします。
	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど教育長のあいさつの中で、不登校のこどもたちの親の会を作りたいというような説明が

あった。

- 以前、「引きこもり支援全国キャラバン」の記事を読んだが、「当事者は好んで、引きこもっているわけではない。どうしていいかわからず、葛藤がある」という内容のコメントがあった。
- また、ひきこもりに関する書籍を読んだが、引きこもりについては、不登校から引きこもりになってしまう場合や、一度は社会に出るが、職場で色々あって引きこもってしまう場合などがある。そのような状況になった時に、一番初めは、親も心配している状況であるが、2番目の状況になると、親も自分の子が引きこもりであることを社会にばれたくないという思いから、親が社会と連携が取れなくなってしまうという場合がある。また、家族の中でも、家族とその個人との間で壁を作ってしまう場合になっていくことがある。もう一度個人を家族の中に引き戻そうというのが、重要であると書かれていた。
- また、少し読ませていただくが、家族が個人との間で壁を作ってしまう原因としては、親との会話で「質問」ではなく「尋問」になっている場合が挙げられている。資料上では、「対話の際に「自分の考えは正しくて相手が間違っている」「何とかして考えを改めてもらおう」という考えがあったとしたら、それは「議論」や「説得」でしかありません。また、「あなたは一体どうしたいの?」といった責める姿勢が見え隠れする質問は「尋問」でしかなく、こどもは否定された気持ちになってしまいます。本来の対話は、個人を尊重しなければなりません。ひきこもり者は「困った人」ではなく、「困っている人」です」と書かれている、自分のこどもでありながら、親戚のこどもを預かっているように会話をしていかないと、こどもの心が親から離れて行ってしまうということであると感したところである。
- 先日 PTA で親子の議論の話もあったが、会話においては傾聴が大切であって、親子であって

		<p>も寄り添った会話が必要であると挙げられていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で不登校になったときに、正論を言うだけの親であったら、脱出できなくなってしまうと思う。 ・不登校となってしまった早い時期に不登校の親の会を開き、講師などによる講演会を開催し、親子の会話の仕方などを教えてもらえたら長引かなくて済むのではないかと感じている。
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の保護者の会については、今年度中に実施予定である。具体的には、教育相談員とも調整中であるが、今年度中に最低1回、できれば2回実施したいと考えている。 ・保護者からの悩みも教育委員会へ上がってきている。 ・相談内容として、保護者が悩んでいるのは、どう対応すればいいかや、同じ境遇にある人と同じ悩みを共有しながら、どう接していけばいいのか、気軽に話したいという要望もあるため、しっかりと対応していきたいと考えている。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・親子の会話教室について、実施されることは大変良いことであると感じた。 ・合わせて、懸念していることは、各クラスに発達障害を抱える児童とその保護者についてである。就学支援委員会にかけても、親とうまく話ができない。早く特別支援学級に入った方が児童にとってはすごくいいと感じているが、周りが見る目と親の考えは違うと感じている。 ・不登校になってからの親の会も大事であるが、発達障害を抱える児童が不登校になる前に、通院する前などの水面下にいる子どもたちの親の会や場所があるといいと感じている。 ・中には、子どもが発達障害であるため、特別支援学級に入れたいが、周りの目や兄弟と比較してしまったり、また、自分の小さい頃の話を持ち出してしまいう親もいることを聞いている。それでも実際は、通常学級についていけない状況であるため、親も辛いと思うが、本当に辛いので

	<p>は本人であるため、早く見極めて親同士の繋がりが持てるような場所があってもいいと感じている。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の保護者同士の懇談会の中では、そのような話が挙がってきている状況である。 ・令和5年度に松伏第二小学校に発達障害の児童向けの通級指導教室を用意することができた。これは、通常学級に在籍しながら、特別な教育を個別に受けられるというような、特別支援学級との中間的な立ち位置の学級である。現在25人の児童が在籍しており、満員の状況である。次年度はもう1クラス増やしたいと考えている。 ・通級指導教室の親の会がある他市町村などを、参考にしながら進めていきたいと考えている。
町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> ・次は松伏小学校に作る予定であると記憶しているがよいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その予定である。 ・今年度設計で、来年度工事を予定したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・松伏第二小学校の通級指導教室を見て、「すばらしい教室である」と評価いただいた。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の整備について補足すれば、他市の情報を集め、専門的な指導主事の意見も踏まえた上で精査し、効果の高いと思われるものを予算とすり合わせて実施している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の話を通じて、小学校はすごく充実しているため、中学校まで持続していただきたいと感じた。 ・保護者の会までいかなくとも、アンケートなどで、どういうものを求めているかなど集約できたらいいのではないかと感じている。特に求められているものと明確化していくのがよいのではないかと感じている。 ・中学校は小学校と違って先生との関わり方や授業の進め方も変わってくるため、小学校と違うことで精神的な負担になり、学校に行くことが難しい子どもたちが増えてくるのは、中学1年生の壁として明確にあるので、一緒に考えられ

		る政策などがあっていいと願っている。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> • 教育と福祉については、特に強い結びつきを感じている。 • 総合教育会議の制度では、意見の聴取者の出席を可能とすることとしているため、可能であるならば、意見を聴取する側である事務局側に福祉の担当者を入れていただけるよう、検討をお願いしたい。
	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> • ケアラーの問題については介護保険とも関わってくるため、横の連携を取りながら進めてまいりたい。
5 閉会	教育長職務代理人	会議の閉会の挨拶
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 次回の会議開催については、2月の定例教育委員会終了後に会議を開催したいと考えている。 • 終了し散会

上記記載事項は、令和5年10月20日松伏町役場201会議室において開催した、令和5年度第2回松伏町総合教育会議の内容を記録したものに相違ないことを認め、ここに署名する。

令和 5 年11月16日

署名人の職・氏名 町長 鈴木 勝

署名人の職・氏名 教育長職務代理人 渡邊 淳子